

令和5年度 学校評価（最終評価）

※ 評価基準：4（よく達成できた）3（まずまず達成できた）2（あまり達成できなかった）1（達成できなかった）

分野（経営の重点）

- ①明るく、楽しく、生き生きとした魅力ある学校づくりを推進する。
- ②確かな学力を身につけさせ、個性の伸長を図る。
- ③町内唯一の高校として地域を支え、地域に支えられながら学校文化の発信に努める。
- ④教職員としての使命感を持ち、高い専門性と豊かな人間性の修養に努め、協働の精神を養う。

A:よく達成できた(4.0～3.3)	B:まずまず達成できた(3.2～2.6)
C:あまり達成できなかった(2.5～1.9)	D:達成できなかった(1.8～1.0)

分野	NO	分野	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	成果	平均	評価	改善の方策	学校関係者評価委員会
総務	1	③	地域・保護者との連携。	(ア)学校行事や教育活動を通じて、保護者や地域との交流を図る。 (イ)積極的にHPを更新し、外部への情報の発信を行い、本校への理解と関心を深める。 保護者アンケートで80%以上が広報活動を評価するようにする。	(ア)行事の保護者観覧は、通常に戻った。グラウンドゴルフ大会も老人会との交流も実施できた。 (イ)先生方のご協力でHPの更新も頻繁に行えた。オープン・ハイス쿨の参加者からも高評価をいただいた。より興味・関心を持って見ていただけるような工夫が必要である。	3.38	A	HPにて、行事への参加を呼びかけていく。グラウンドゴルフについても実施予定。 よりHPの充実を図り、本校の取り組みや活動内容を随時伝えていきたい。オープン・ハイス쿨において、新しい統合校の意気込みをアピールしていきたい。	
	2	④	危機管理の意識と判断力の向上。	(ア)防災訓練を計画的に行い、初期対応や注意事項を確認させる。 (イ)訓練の内容や方法を工夫し、職員・生徒の防災意識を高め、アンケートで災害時どのように行動するかを考えている生徒が80%以上いるようにする。	(ア)7月の避難訓練(地震)では、避難困難者を設定し、共助の意識を持ち行動できた。 (イ)3月の訓練は、自衛隊の協力のもと実施予定であり、防災に対する意識を高める企画である。	3.53	A	来年度は、消防署にも協力を依頼し、訓練を行いたい。 より一層生徒・教職員の防災意識の高揚のため、職員研修を実施したい。	
	3	②	図書に関する情報提供を積極的に行い、生徒の読書活動の活性化を図る。	(ア)適切な図書の収集・情報提供を行う。 (イ)読書室・学習室として一日平均10名以上の利用を図る。 (ウ)1,2年の全生徒対象に夏休みに西播読書感想文を提出させる。 (エ)年度末に「水流」を発行し、読書活動や図書委員会活動を活性化させる。 (オ)生徒参加型の図書だよりを発行し、全生徒に配布する。 (カ)図書委員による学級文庫の設置を行う。	(ア)図書の収集・情報提供を行うことができた。 (イ)読書室・学習室として開館したが利用人数の目標を達成できない日があった。 (ウ)1,2年の全生徒に西播読書感想文を提出させた。 (エ)年度末に「水流」を発行し、読書活動や図書委員会活動を活性化させる予定である。 (オ)生徒参加型の図書だよりを発行し、全生徒に配布、およびHPに掲載した。 (カ)図書委員による学級文庫の設置を行った。	3.35	A	日頃から本を読む習慣を身につけさせたいと考える。図書委員が中心となり、自主的に活動が行なわれるよう支援していきたい。図書だより作成を含め、読書を推進していくために、生徒の要望やアイデアを募り、活動を生徒参加型のものにして、親しみが持てるものにしていきたい。	
	4	④	学校全体の人権意識の高揚を図り、一人一人の人権を尊重する。	(ア)各学年の実態に応じたLHRを計画実施する。 (イ)生徒・教職員の必要性に応じた講演会や研修会を実施する。	(ア)各学年毎学期、人権HRを実施した。 (イ)人権教育講演会を全校生対象に11月に実施。姫路保育福祉専門学校校長である前田真吾氏による講演を実施した。共生社会をテーマに、現代社会における様々な課題に対し、社会的な「見方・考え方」を総合的にはたらかせ課題解決を探求するポイントを学ぶことができた。また将来の職業選択への参考となる貴重な経験談を聴くことができた。	3.41	A	(1)あらゆる教育活動を通じて、生徒が人権の大切さを認識する活動を推進する。 (2)各学年で実践された人権HRの内容を、全体で共有して、発展させる。 (3)講演会の内容について、現代における問題点にそったテーマを企画する。	
	5	①	美化委員の活動を活性化させる。また、生徒が安心して学習や活動に取り組める環境を作る。	(ア)美化委員によるゴミ当番・クリーナー清掃・学校行事における美化活動を活性化させる。 (イ)清掃用具の点検、安全点検を行い、生徒自身が学校生活や美化活動に取り組みやすい環境を作る。	(ア)監督教員の不在時も美化委員によるゴミ・ステーションの整備が良好に行われ、クリーナー清掃、文化祭や体育祭における美化活動もできた。後期は美化委員を中心にワックスがけを行う予定である。 (イ)年2回、職員による安全点検とともに、美化委員による清掃用具の点検やモップ・Tほうき交換などの用具整備、トイレ芳香剤の設置を行った。 本館・家庭科棟トイレの整備に伴い、清掃方法や清掃用具の選定が課題である。	3.47	A	限られた職員・生徒の中での清掃区域や分担の再考が必要である。今後も、工夫しながら、生徒の手による清掃、清掃用具の整備、点検等を実施し、充実させていきたい。生徒が安全に学校生活を行えるように、古い備品や用具を定期的に入れ替えていきたい。	
教務	6	②	学習意欲の向上を図る。	(ア)教材の精選と指導方法の工夫に努め、生徒の学習意欲の向上につながる授業改善に取り組む。 (イ)生徒による授業評価を実施し、80%以上の生徒が学習意欲の向上を実感する。 (ウ)効果的な家庭学習の方法を模索する。	生徒による授業評価で「意欲的に授業に参加したか」の項目で85%の生徒ができたと回答し、また、「授業の内容は理解したか」の項目で78%の生徒ができたと回答した。 家庭学習については、クラス担任による個人面談において、助言を行っている。	3.29	B	学ぶ姿勢、学習意欲の向上、効果的な家庭学習において、良い相互関係の構築を目指す。 コースの取り組みを今以上に普通コースに伝える取り組みを考える。例えば、サイエンスⅡの課題研究の発表会にできるだけ多くの教員や生徒が参加できるように工夫する。	
	7	④	教員の指導力の向上を図る。	(ア)校内研究授業や公開授業などの研修を通じて指導力を高める。 (イ)生徒アンケートで教師が授業を工夫していると評価する生徒が80%を超える。 (ウ)タブレットなどのICTを活用した効果的な指導方法を研修する。	公開授業や校内での研究授業を計画を立て、年3回実施することができた。定期的実施することで、自他の授業について振り返る良い機会が持っている。 生徒アンケートでは、教師が授業を工夫していると84%の生徒が評価した。目標数値は達成できているが、甘んじることなく良い授業構築の取り組みは続けたい。 ICTの活用は各教員で実施している。しかし、効果的な指導方法についての研修は現在行っていない。各教員の取り組みの発表をするなどし、研修の場をもつことを今後検討したい。	3.26	B	校内研究授業、公開授業週間は引き続き行う。 協同学習を行うためのツール(タブレットのアプリ等)の使い方や授業展開例を学ぶための研修会を行う。	
	8	①②	魅力的な教育課程を編成する。	(ア)大学入学者選抜実施要項の見直しをふまえ、新学習指導要領による令和4年度以降入学生の進路実現に向けた新教育課程を編成する。また、すべての教員がゆとりを持って、教科指導にあたるように時間割編成を工夫する。 (イ)教科の選択や、評価方法の理解を深めるために、シラバスを効果的に活用する。 (ウ)コース・類型の特色を図るため、教育課程の見直しと改善に取り組む。	シラバスを生徒に示し、進路選択の一助となるように活用することができた。 時間割も教科や分掌の会議が、放課後ではなく、日中にできるように、時間割を編成することができた。 各行事や学習活動ごとに振り返りを行い、成果や課題を確認することができている。新課程、3観点評価、発展的統合、次々と新しくなっていく教育活動に備え、引き続き、教育課程を検討していきたい。	3.38	A	引き続き、教員が働きやすい環境をつくるために、時間割編成を工夫する。デジ楽採点の活用を推進する。 新学校を見据えて、特色化を図り、上記の取り組みを踏まえながら、総合的な探究の時間を充実させるための工夫を行う。	

分掌	NO	分野	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	成果	平均	評価	改善の方策	学校関係者評価委員会
生徒支援	9	④	規範意識・マナーの向上を図る。	(ア)問題行動(いじめ)の早期発見と迅速かつ丁寧で慎重な対応をする。 (イ)ネットトラブルを起こさない、巻き込まれないよう携帯電話やタブレットのインターネット利用時のルールやマナーを守る態度を育成し、情報モラルの向上を目指す。 (ウ)個人ロッカーを設置し、貴重品などの自己管理を徹底させる。 (エ)自転車を中心とした交通安全教育の推進する。 (オ)職員室への入室方法を見直すなど、学校生活の中で規範意識を育む。	いじめアンケートを年間4回実施した。今年度より、1・2学年はタブレットを用いて回答するようにした。アンケートにより発見したいじめ事案が1件あり、迅速に対応することができた。携帯のマナー指導件数は1月末現在で25件と昨年度の指導件数をとほぼ同等であり、注意喚起を継続して行う必要がある。また、登下校のマナーについても、引き続き見守ってきたい。	3.32	A	引き続きいじめアンケートの内容と実施方法を見直し、改善していき、いじめの防止につも情報共有する機会を増やしていき。携帯電話のマナー指導を行いネットトラブルからいじめにつながらないように、情報リテラシーを高める工夫をおこなう。	
	10	①③	福高生としての心構えを確立する。	(ア)自信と誇りが感じられる身だしなみの指導。 (イ)地域に貢献する姿勢と、母校愛の涵養を図る。 (ウ)全職員による生徒とのコミュニケーションの強化する。	各学期はじめの服装髪型検査を機会に生徒の身だしなみの指導を実施した。文化祭では、サルビアこども園の児童たちと交流したり、11月には1年生がボランティア清掃として学校周辺を掃除するなど、地域とのつながりを意識できる行事を行った。	3.24	B	身だしなみを整えること、普段からの生徒の変化に気づくように努め、学年間で統一した意識を持つ必要がある、部会等で意見を出し合い確認していく。	
	11	①	自分を大切にし、他者を思いやる生徒の育成を図る。	(ア)あいさつ運動を継続実施する。 (イ)相互理解の態度とさわかな自己表現力を養成する。 (ウ)不登校の予防と早期発見に努め情報共有を密にする。	生徒会執行部と生活委員によるあいさつ運動を実施。各クラスの生活委員も自覚と責任感をもって取り組んだ。毎週行われる部会や年3回行われる生徒情報交換会で生徒の情報を全職員に共有するとともに、生徒にキャンパスカウンセラーを積極的に利用させることで不登校の予防や慎重かつ丁寧な対応を行った。	3.41	A	あいさつ運動は継続し、あいさつをおこなうことで生徒の規範意識や所属意識を高めるように工夫する。みちしるべを活用した生徒とのコミュニケーションによりきめ細やかな生徒支援の配慮を行っていく。	
進路支援	12	②	主体的に進路をマネジメントする能力を育成するためのシステムを構築し、効果的に運用する。	(ア)高大接続改革に伴う入試の在り様やスケジュールの変化に基づき、3年間の各時期に何をしていく必要があるかの確認ができた。 (イ)「みちしるべ」の点検と、それを利用しての面談が、定期的に実施できた。またキャリアパスポートの記載の蓄積ができた。 (ウ)受験にあたっては、ホームページや募集要項などをその都度参照させて、大学側の情報を収集させたり、定期的な面談や進路HRの中で、入試のスケジュールや受験科目の確認などができた。	(ア)時期毎の進路HRや進路講演会等を通して、各時期に何をしていく必要があるかの確認ができた。 (イ)「みちしるべ」の点検と、それを利用しての面談が、定期的に実施できた。またキャリアパスポートの記載の蓄積ができた。 (ウ)受験にあたっては、ホームページや募集要項などをその都度参照させて、大学側の情報を収集させたり、定期的な面談や進路HRの中で、入試のスケジュールや受験科目の確認などができた。	3.38	A	共通テストが来年度から新課程対応になる関係で、受験科目が増えたり、総合型選抜の受験生が増加する中で、より早期の受験体制づくりが必要になってきているので、特に2年生の3月の時間の使い方について、学習面と進路学習の双方から、具体的な方策を考え、実践し、3年生の4月段階で受験生になれる体制づくりをしていく。	・子どもであるが、今の大学入試システムを親がもっと勉強しないと非常に厳しい。 ・1年次に持っていた進路希望を実現させて頂きたい。
	13	④	共通テストや高大接続改革、新教育課程での入試に対応できる指導の充実に向けて、方法や情報の蓄積、共有、協働を図る。	(ア)高大接続改革が進む中で明らかになってきた、マクロ的、ミクロ的な改革の方向性についての情報を、職員会議や研修会、進路支援通信等の発行を通じて、積極的に発信してゆく。 (イ)教務と連携しつつ、生徒の学びの状況を分析し、効果的・効率的な受験勉強のさせ方についての議論を深めてゆく。また新教育課程での入試対策に向けての議論を活かす。 (ウ)小論文や面接が重視される中で、基本的な指導方法の共通理解を深めつつ、より効果的、効率的な指導法についての議論を活かす。	(ア)新課程入試についての職員研修会を9月に実施し、現状や今後の指導の仕方等についての情報を共有できた。また部会等を通じて、本年度の入試の形態や実態について、きめ細かく発信できた。 (イ)模試結果の分析を通じて、どういった問題があり、どう対応していくか、問題意識を共有できた。また教育課程委員会で受験を踏まえた望ましい教育課程についての議論ができた。 (ウ)「進路の手引き」等を通じて、小論文や面接の指導の仕方について共通理解をしつつ、入試改革による新しい出題の仕方などについて、情報を収集しながら、対策の検討を行っている。	3.41	A	新課程入試が始まる中で、共通テストの変更だけでなく、国公立大の二次試験、私大の一般選抜の仕方の変化に加え、総合型や学校推薦型の変化など、流動性が高まる状況の中で、必要最低限の押さえておくべき情報と、生徒側に調べさせて、対応させる情報、などの、マクロ的な視点からの情報分析・整理をし、それを教師や生徒に時期毎に提示してゆく、ということを進めてゆく。	
	14	③	キャリア教育の一層の充実を図る。	(ア)看護体験や就業体験等のインターンシップを、2年時より計画的に実施する。 (イ)「職種別生き方座談会」等を通じて、職業意識、勤労観を養う。	(ア)3年ぶりに医療体験が実施できた。2年生の就職希望者に対して、役所でのインターンシップを夏休みに実施できた。 (イ)「職種別生き方座談会」を11月17日に実施し、PTAや卒業生からの話を聞くことで、自分の将来について考えることができた。	3.56	A	社会の中で働くということの意味や求められる能力を踏まえた上で、なぜインターンシップが必要なのか、ということを事前指導で提示し、事後に何を待たのか、ということの確認をするなど、よりインターンシップが効果的になるような、指導をしてゆく。	
1学年	15	②	基本的な生活習慣を確立し、基礎学力の定着を図る。	(ア)気持ち良い挨拶の励行、時間厳守を意識させ、「みちしるべ」に学習時間等を記入することで、時間の有効利用を促す。 (イ)授業を大切に、予習・復習等の家庭学習を充実させるとともに、小テストや週末課題に真面目に取り組ませる。以上を基本に、家庭学習時間が週平均15時間以上の生徒が70%を超えることを目標とする。 (ウ)タブレットPCを活用し、授業での学習効果を高め、効率のよい学習を行う。	入学直後に比べると、高校生としての目覚めが高まるようになった。小テストや週末課題などの学習習慣の定着は個人差があり、まだまだ達成できていない生徒が多い。「家庭学習の時間は足りているか」というアンケートに対して足りていると感じている保護者は29.5%と低い。模試の結果を分析し、進路への意識を高めるとともに学習時間の増加を促す必要がある。タブレットPCによるアンケート実施、小テストや課題配布、回収、生徒連絡等を行い効率良く学習を行える方法を試行錯誤しながら行うことができた。	3.09	B	タブレットPC端末の利用を通じて、スムーズな連絡や予定の管理を行い、その有用性を意識させたい。また、授業の予習・復習・週末課題をこなすだけでなく、日々の学習内容の定着が必要であることを理解させ、放課後等を使い補習を行いたい。	・家庭学習の充実を計ってほしい。
	16	①	知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。	(ア)学校行事や部活動への積極的な参加を促し、学校生活の充実を図る。 (イ)学校生活を通してルールやマナーなどを守る態度を育て、周囲の人に気を配ることができる、思いやりのある集団作りを目指す。以上を基本に、充実した学校生活が送れている生徒が80%を超えることを目標とする。 (ウ)情報モラルを高め、生徒同士で注意し合える雰囲気作りをめざす。	大学直後に比べると、高校生としての目覚めが高まるようになった。小テストや週末課題などの学習習慣の定着は個人差があり、まだまだ達成できていない生徒が多い。「家庭学習の時間は足りているか」というアンケートに対して足りていると感じている保護者は29.5%と低い。模試の結果を分析し、進路への意識を高めるとともに学習時間の増加を促す必要がある。タブレットPCによるアンケート実施、小テストや課題配布、回収、生徒連絡等を行い効率良く学習を行える方法を試行錯誤しながら行うことができた。	3.12	B	中堅学年として学校行事や部活動、生徒会活動の中心となって各活動に積極的に取り組み、主体的に行動できる生徒を育成したい。また、修学旅行に向けて、集団生活の規律を守り、自己の役割を果たすことと規範意識を高めたい。より思いやりのある集団づくりを目指したい。	
	17	②	進路意識の高揚を図る。	(ア)「総合的な探究の時間」における職業調べや学部学科調べを通して、将来の進路について考えさせる。 (イ)オープンキャンパスや進路ガイダンスへの積極的な参加を促す。以上を基本に、2年生に進級する時点で、全生徒が何らかの進路目標を持っていることを目標とする。	総合的な探究の時間における活動や考察を通して、将来の進路について真剣に考えた。また、総合的な探究の時間で継続的な進路学習を行い、自らの特性を理解し文理選択・進路選択のために積極的に情報を活用できた。また、「生き方座談会」や「進路講演会」からも良い刺激を受けることができたという感想を持つ生徒が多かった。	3.44	A	まだ目標が定まっていない生徒がいるため、どの生徒にも、目標を具体的に意識させる必要がある。また、進路実現に向けてどのようなことが自分自身に必要なのか、しっかりと考えさせていきたい。模擬試験などの振り返りによって、目標実現に必要な力を意識させたい。	

分掌	NO	分野	評価項目・達成目標	評価指標(具体的な達成目標)	成果	平均	評価	改善の方策	学校関係者評価委員会
2学年	18	②	基本的な生活習慣と計画的な学習習慣を定着させる。	(ア)挨拶の励行、礼儀正しい態度を意識させる。 (イ)時間厳守、タイムマネジメントやスケジュール管理を意識させるために「みちしるべ」の活用を促す。 (ウ)授業を大切に、日々の家庭学習を充実させるとともに、土日の有効活用を意識させる。 (エ)タブレットPCを活用し、教科の特性に合わせて効率よく学習を進める。	大部分の生徒は基本的な生活習慣を確立している。家庭学習時間については、調査直前の週は6割程度が目標を達成しているが、学年全体の平均は週14時間程度であり、家庭での継続して学習する習慣が確率できている生徒とできていない生徒があり、その差が大きくなっている。	3.21	B	各自の進路希望の実現のための自己管理、特に家庭学習時間を確保できるように指導する。特に学習時間の確保とその習慣化の指導を行う。具体的な進路選択に応じた学習状況の振り返りをおこない、部活動引退後は受験勉強にスムーズに切り替える意識を持たせたい。	・家庭学習の充実を計ってほしい。
	19	①	知・徳・体の調和のとれた人間性と主体性豊かな生徒を育成する。	(ア)学校行事や部活動への、中堅学年としての積極的な参加を促し、学校生活の充実を図る。 (イ)学校や社会におけるルールやマナーを遵守する態度を育てる。 (ウ)周囲の人に気を配ることができる、思いやりのある集団作りを目指す。 (エ)修学旅行等の行事を通じて集団生活の規律を意識し、社会に通用する人間形成を行う。	アンケートでは家庭学習時間が「足りない」と答えた保護者が6割近くであり、進路実現のためには学習時間が不十分だと思われる生徒も残念ながら多かった。みちしるべ等を活用し時間の有効活用について、継続して指導した。授業への取り組みについては、「熱心に取り組んでいる」と答えた生徒が8割であるが、「授業を理解できている」と答えた生徒は7割程度であるので、授業内容の定着を図る必要がある。	3.44	A	最高学年として自覚を持たせ模範となるように学校生活全般に於いてリーダーシップをとり、卒業後の社会でも通用する生徒になれるよう指導していきたい。さらに、日常生活や行事への取り組みの中で、集団での自分の役割や立場を意識させ、社会のルールやマナーを守る自律した生徒を育てたい。	
	20	②	進路目標の明確化を図る。	(ア)個性や適性をとらえながら、自己の進路について、より深く考えさせる。 (イ)タブレットPCを活用し、幅広い情報に基づいた、豊かな人生観・職業観を養い、進路目標を具体化させる。 (ウ)進路実現に向けて必要な学力を意識させ、模試の結果から自己の特性を分析し、個々に必要な学習に取り組ませる。	今年度は、ほとんどの生徒が大学でのオープンキャンパスに参加した。また各種オンラインのツールを利用して、進路について考えを深めた。類型選択・科目選択では、各自の進路や受験科目に対応する選択をし、その過程で、より具体的な進路目標を持った。修学旅行後は学年としての団結心を持ち、進路実現に向けての気持ちの切り替えを意識する生徒が出てきた。	3.35	A	新課程が始まり、入試制度改革のなか進路実現を折に触れて意識させ、先手を持ってスケジュールを立て主体的に管理させる。模試の結果を活用し、自己分析の中から成長につながる指導を促す。また、個人面談によって、生徒理解に努め、個々に応じた進路指導をしていきたい。	
3学年	21	②	基本的な生活習慣に基づき、家庭学習時間を確保し、計画的・継続的に学習に臨ませる。	(ア)各自の進路希望実現のため、家庭学習時間を確保できるようなタイムマネジメントを指導する。 (イ)「みちしるべ」の有効活用を促し、自ら生活習慣や学習習慣をチェックし、改善しようとする意識を持たせる。 以上を基本に、大学進学希望者は、週30時間以上の家庭学習を実践させる。	アンケートでは家庭学習時間が「足りている」と答えた保護者が45%程度であり、進路実現のためには不十分と思われる生徒も残念ながら多かった。進路決定者を含め、時間の有効活用について、継続して指導した。授業への取り組みについては、「熱心に取り組んでいる」と答えた生徒が87%であり、「理解できている」と答えた生徒は82%を超える。課題提出状況や小テストへの取り組みは概して良く、課せられたことは果たしたが、自主的・自律的な姿勢に欠ける生徒も少なからず見受けられた。進学希望者の学習時間は直前になり増加したが、取りかかりが遅かった生徒もいた。	3.18	B	3年間の高校生活を有意義に送るために、家庭学習の習慣を定着させることが不可欠である。入学直後からタイムマネジメントを指導することが大切である。特に1年次における家庭学習時間の確保が必須だと言える。また、小テストや週末課題への取り組みも大切にさせ、日々の学習を積み重ねていくことが総合力につながるということを意識させることが必要である。	・家庭内、親が言っても家庭内学習が少なく、めりはりがない。やはり、学習する子はどのような環境下でも学習する、遊ぶのめりはりが整っている。自発的に学習するスイッチを入れるには苦勞する。
	22	①	知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな生徒を育成する。	(ア)高校生活最後となる各学校行事に、最高学年としての自負をもって取り組ませる。 (イ)日常生活や行事への取り組みの中で、集団での自分の役割や立場を意識させ、周りの人への気配りを心がけさせる。 (ウ)個人の目標に向かって努力しながら、切磋琢磨し、お互いを尊重しあえる集団作りを目指す。 以上を基本に、充実した学校生活を送れている生徒が80%を超えることを目標とする。	生徒アンケートから、「目標意識を持って学校生活を送っている」と答えた生徒は83%程度いる。「学校行事に意欲的に参加」と答えた生徒が約90%であり、最高学年として積極的に取り組み姿が見られた。仲間との関わりの中で、充実した学校生活が送れていることがうかがえた。	3.41	A	高校生活の中では、学習面だけでなく、部活動や学校行事に参加することで得られるものが多いため、積極的な参加・取り組みを促したい。また、その過程での仲間との関わりやコミュニケーションを通して、集団の中の個としての行動を意識させることが大切である。	・家庭学習の充実を計ってほしい。
	23	②	各自の進路希望の実現に向けて、個に応じた丁寧な指導をする。	(ア)自分の進路は自分で切り拓くという強い意志を持たせ、目標実現のための努力を継続させる。 (イ)模試受験後は、弱点補強・フィードバックに努めさせる。 (ウ)面談等を丁寧に行い、生徒理解に努め、個に応じた進路指導をする。 以上を基本に、各生徒が納得のいく進路選択をして卒業できるようにする。	4月以来、絶えず担任が個人面談をし、学習法、志望校、受験科目、模試のフィードバックなど、様々な面で細やかなアドバイスをした。また、面接や小論文の指導に関しては、多くの先生方に関わっていただいた。私大を総合型選抜や推薦入試から受験する生徒が多かった。国公立大学でも総合型選抜や推薦入試からチャレンジし例年以上に合格者が出た。共通テスト受験者は多くはなかったが、志望校合格を目指して、2月・3月の一般入試まで粘り強く努力するよう、指導した。	3.44	A	進路実現に関しては、自己分析をし、適性や興味を考えながら、志望を早期に確立したうえで、努力していくことが必要である。あらゆる機会を通して、生徒に必要な進路情報を与えながら、1年次より、自分の進路を切り拓く自律的な姿勢と、進路実現のために努力する積極的な姿勢を養っていく必要がある。	
						3.35			

学校へのご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・統合するにあたり、校舎、施設の修繕、立て直し等可能な限りで新しくなれば良いと思います。 ・中学生が進路目標にする学校にして、定員割れが起きない魅力ある高校にしてほしい ・①設問「本校の教育環境は整っているか」。保護者、生徒共に特に評価が低くなっている。「対策」どこの、何が(どんな設備)悪いのか、不備なのか、至急具体的に詳しく分析して改善、新たに設備の導入を検討する必要があると思います。 ・②設問「家庭での勉強時間」生徒の「目標、目的意識」。「対策」入学から早い時期に「三者面接」等で目標目的を共有する事を考えてみれば、特に男子は、学校での様子を話さない者が多いと思います。学校と保護者との連絡方法を見直しては、どうか。 ・③設問「地域への貢献活動」。色々とボランティア活動に取り組まれている様ですが、広報活動又は親子のコミュニケーションにも良いと献血活動を紹介し、(別紙資料の通り)若い人の献血が少ないようです。福高祭にあわせて実施されては？ロータリークラブも支援できると思います。
---------	--